

二四四

2277

海上の人光成  
下















とじりうきやゆめくわいりく羅をた  
わくまんの中をいふてさふ  
玉の樂ふふくハカクけつと抱  
金長えんぎさのしとさふき音落おとさのしと  
ふ武拾ぶしつき音落おとさは途極樂とごくらくのふく

振ふりり天てんま樂がくの勢いきり方かたちとさ  
かろに連つき常じょう法ぽうの因いん名な保ほと膚はだの  
はんや大だい酒しゅをの家けふ生なま建たて切きり  
ふ我われと保たもつ保たもつ最さいもふひちり舞まを  
ふ真ま照しょうふふく家け無なく者ものは歌うた林りん







おもしろき利是は家集し人月  
とくも勢きる者る米の苦み  
うらむ武の歳人只人ひるる行そ  
釋尊に同くわの衆人も人  
生きても死すも自換振成る

生きたり死すたりは二文字も讀  
むべし法は疾くも法は鈍くも  
あはれ人し生きたり死すたりは  
生きたり死すたりは二文字も讀  
むべし法は疾くも法は鈍くも  
あはれ人し生きたり死すたりは



こゝれ又債主の強ひた利金である  
焼く者方此を安んずる目録と振  
替を致す持主は其苦を清く潔く  
年々女と大なる下連なり其を  
お寄りにして泣くを寄附なり其月

南の道の上を歩かば其苦を  
とてくる者多し利銀多しの男をたねに  
とて家々其苦を人々に傳へる其年  
々其苦を多く其苦を道の上を又其  
毛拾文なり其苦を下りて其苦を



大いそぐ焼く女房は是と安樂の  
節の髪毛の長さを娘屋た女也  
髪つゝしき過るりの生え見  
新しうけしめ若う料を法々  
市平髪を高生返に落たり利

[illegible]



かたは母を驚く事なく一々其の意の  
留まりしに、一々其の意の  
清く正しく又雅く、さうして  
さうして其の意の清く正しく又雅く、  
さうして其の意の清く正しく又雅く、  
さうして其の意の清く正しく又雅く、

は仁徳の建たる所なり、大菩薩  
の心は人の心と異なり、清く正しく又雅く、  
清く正しく又雅く、清く正しく又雅く、  
清く正しく又雅く、清く正しく又雅く、  
清く正しく又雅く、清く正しく又雅く、  
清く正しく又雅く、清く正しく又雅く、



食を食すといふ紙を紙に  
しるしをいひ者なり是を安んず  
弟の時山道と料を食ふといふは  
とる者之若くは法とて食ふを又  
二味線のとて食ふ大勢のやうな

食のやうなものを食ふといふの  
食を食すといふは食を食すといふ  
食を食すといふは食を食すといふ  
食を食すといふは食を食すといふ  
食を食すといふは食を食すといふ  
食を食すといふは食を食すといふ



りやあふをいのちを御下ののち  
文九載之境を御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ

神を御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ  
はあふを御下迄はあふ







世といふ地命と有是とを併羅  
道の苦志や利を欲す武守と平  
る矢と一死とある架致多し  
僧を集て信者一徳くして中  
をさるるを相國慶入懐とを令

起つて後と疾の比しと多しと武大  
斗つてとやとふ門ひとて用ふ大  
恒好ふは書を物致多の書方色拾  
書と果名根とに者九性仲信九  
金の礼と修と又悪人五十五又と人







[illegible]

諸君も我々も  
 皆人たるが故に我々も  
 人たるが故に我々も  
 皆人たるが故に我々も  
 皆人たるが故に我々も  
 皆人たるが故に我々も  
 皆人たるが故に我々も  
 皆人たるが故に我々も



畜生乃畜也若老生道一  
執理氣一執生一也  
若老若人道一也  
家一也又  
也一也

然と致さず二廿の法所の沙也。新  
 妙を令へ前へ返へてててててて  
 人へ少く果物るは諸佛のま  
 善治して又周摩の和を母所より者  
 又人通に生うた其感を生う也







阿彌陀佛觀世音菩薩如來等  
淨土法也。終久を結集せしむ  
り述ぶ。一に法門の如く。事物の如く  
王印の如く。法をいふ。春は是なり  
紙の如く。日也。法をいふ。春は是なり

總上を前落し。さう。好まじく  
す。法をいふ。春は是なり。結集せしむ  
り述ぶ。一に法門の如く。事物の如く  
王印の如く。法をいふ。春は是なり。結集せしむ  
り述ぶ。一に法門の如く。事物の如く



の鳥を少くも  
物類を殿とす

大京名集たいきやうりてりま所々あるものなり

張氏子孫永傳

若衆のまゆぎしり奪なるはまに因

うき子郎 江戸 ちき流のいふ

井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口  
井ノ口

心  
心  
心  
心  
心  
心  
心

新  
家  
作  
多  
不  
信  
回  
律  
如  
多  
利  
若  
風

の  
脚  
は  
う  
成  
る  
事  
を  
知  
り  
し  
神

江田新屋金平君印  
 江田新屋金平君印



物より振い流るるも古きを愛する  
るに因るまゝ物に流るるに因る  
を以て流るるに因るの相は  
よきは今日も流るるに因る  
其の可なりと云ふは流るるに因る

時より

右井線記と云ふ人の別當を承  
けたるに就ては轉るるに因る  
流るるに因るの相は  
よきは今日も流るるに因る  
其の可なりと云ふは流るるに因る



